

議長定例記者会見 会見録

日時：令和8年7月7日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 「第20回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

2 質疑項目

- 「第20回紀伊半島三県議会交流会議」について
- 6月定例会議について
- みえ県民1万人アンケートについて
- 福岡県議会に関する報道について

1 発表事項

- 「第20回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(議長) おはようございます。ただ今から、7月の議長定例記者会見を開催させていただきます。本日は発表事項が一つございます。それは、「第20回紀伊半島三県議会交流会議」の開催についてであります。内容について発表させていただきます。お手元の発表事項1の資料をご覧ください。「紀伊半島三県議会交流会議」は、紀伊半島地域に共通する課題等について、三重県、和歌山県、奈良県の三県の県議会議員が緊密な意見交換を行うため、平成20年から毎年開催しているもので、今年は和歌山県が開催県として8月4日火曜日に和歌山県高野町の高野山学びの杜で開催させていただきます。本県からは、私と副議長のほか、新政みえ2人、自由民主党2人、草莽1人の計7名が出席する予定でございます。和歌山、奈良両県議会からもそれぞれ議員が出席する予定でございます。会議後には、高野町平野町長より「高野町の取り組みについて」をテーマとした講演が行われる予定でございます。今回の議題は二つございまして、一つは「半島防災に不可欠な紀伊半島アンカールート早期整備について」と「紀伊半島地域におけるクマ被害対策について」であり、これらについて有意義な意見交換を行いたいと考えております。私からは以上でございます。

2 質疑項目

- 「第20回紀伊半島三県議会交流会議」について

(記者) 幹事社です。

(議長) お世話になります。

(記者) 発表項目の交流会議について伺いたいんですが、この講演で高野町の取り組みとあると思うんですけど、高野町にはどういった先進事例があるんですか。

(議長) 私も詳しい話は存じ上げてませんが、高野山を中心とした観光を含めた取り組みがあると聞いております。詳しくは、まだ情報いただいておりますので、期待をしているところであります。

(記者) 良い取り組み方法があれば三重県でも横展開していきたい、そういった考えですかね。

(議長) おっしゃるとおりでございます。実際に観光を含め、いろいろな取り組みをしていただいておりますので、おっしゃったように、その本質的なところっていうんですか、それを三重県の中でもできないかというようなことも含めてお話を伺いしていきたいと思っております。

(記者) ありがとうございます。各社さんからあればお願いします。

(記者) 一方で議題のほうですけれども、アンカールートとクマ被害対策ということで、県としてもこの二つには課題なり思いあると思っておりますけれども、議長としてどのような意見を伝えてですね、どのような意見交換したいかという思いがあれば。

(議長) アンカールートについては、非常に地域の皆さんにとっても重要なルートでありますし、以前からわが県議会においても議論されてきたところでございますので、地域住民の生活道路であり、緊急医療という視点では命の道という言い方もされておりますので、極めて重要な幹線道路であると、そのネットワークであると思っております。三県の事業中の区間、そして区間の整備状況であったり、未整備区間等について情報共有をさせていただいたり、あるいは具体的な意見交換等も含めて検討させていただいて、必要に応じて関係機関への要望ということも頭に置いて、つなげていきたいなと思っております。もう1点、ツキノワグマでございますけれども、これは皆さんご存じのように、ツキノワグマが人の生活圏の中に、全国的に入ってきておるという事例が出てきておりました、何と言ってもクマが人の命や生活を脅かす事態が全国的に増えておりました、紀伊半島地域においても目撃情報、出没が非常に増えてきておりますし、三県でツキノワグマに係る緊急対策であったり、中長期的な抜本対策に向けた情報共有であったり、意見交換を行いながらそれぞれの議会における活動につなげていくことができるのではないかと期待もいたしております。

(記者) 交流会議のほうで、例えば何らかのですね、決議であったりとか協定であったりとか宣言であったりとか、こういったことをまとめられるような見通しになってたりとかはしませんか、今のところ。

(議長) ある程度の方向性をその場で考えていきたいと思っております。当然、三県ですので、そこでの意見調整も必要かなと思っております。

(記者) 毎回会議で何らかのものをまとめたりとかしてるんですかね。宣言とか決議とかは。

(議長) 昨年度はどうでした。

(事務局) 昨年度は、クマについては最終的には提言をしております。今おっしゃられた協定とか決議よりも、話が合えば要望につなげていくケースが多いというのがこれまでの例でございます。

(記者) クマに限らず、他のテーマでも何らかの提言や要望などはしている。

(事務局) はい。

(記者) また詳細、後でお尋ねします。

○ 6月定例会について

(記者) 項目外でよろしいですか。

(議長) どうぞ。

(記者) 議長・副議長が新体制になられてからの6月定例会が先日終わり、議長・副議長の所感をそれぞれお願いします。

(議長) 今回6月の定例会というのは、個々の議員の皆さんも新しい年度ですので、新鮮な思いで対応いただいたと思っております。一般会計の補正予算が中心になっておりまして、さまざまな審議をいただいたところでございます。特に中小企業・小規模企業、農林水産業、交通・貨物事業者の皆さんに対する支援の実施をするための予算が提案された、そして16日には、重ねて、エネルギー価格の高騰を見据えた生活者や事業者に対する負担軽減策を講じるための補正予算でございまして、直接、県民の皆さんに影響のある補正予算でございますので、

審議をさせていただいて、可決をさせていただいたと。執行部の皆さんにおかれては迅速に対応いただきたいと、そんな思いをいたしております。

(副議長) 前回、前々回の記者会見でも言わせていただきましたけども、正副仲良く楽しく充実した日々を送っているところでございます。前回の議会は補正予算がありまして、活発な議論があったと思いますし、また、前回の全協のときに、プランとともにビジョンも改定していきたいという知事からの報告がありました。非常に大事な大きな方針、計画、プランでございますので、県議会議員が熱心に議論できるような、そういった場や時間を考えていければと思っております。以上です。

○ みえ県民1万人アンケートについて

(記者) ありがとうございます。先日、県のほうで県民1万人アンケートが公表されていましたが、もしご覧になられていれば所感をお願いします。

(議長) まだ正確な結果はいただけてはいないんですけども、それについて、1項目はまだ慎重な検討だということでございますし、それなりの結果をいただいたというか、方向性の程度でございますので、正式にいただいた時点で、どんなふうに政策に反映をしていくべきか、そんなことも検討していきたいなど。それは当然、議員の皆さんと一緒にやってということでございますけども。

(記者) 副議長はございますか。特に気になった項目だったり、結果。

(副議長) 議長が言われたとおりだと思います。それから、同時に、結婚観だとか家族観を問うような設問がありまして、大きな危機感を持って対応しないといけないなどは思いました。

(議長) 付け加えますけども、正式にまだ発表されてませんので、その辺は大まかな方向性ということだどご理解いただきたいと思えます。

(記者) 今回、国籍要件に関する設問、問16は一旦公表見送りという形になりましたけど、この選択はどのように見てらっしゃいますか。

(議長) 内容については、コメント、私どもがする立場にないということなんですけども、執行部としては、この問題についてはいろんな視点から見て、慎重に、かつ正確な分析をしていかなければならんということ、分析の途中だどお伺いしています。それはやむを得ないのかなどは思っております。

(記者) 知事は、いずれ執行部案を議会側にもお示しすると会見でおっしゃってますけど、議会としてはどういった分析をしていきたいと思ってますか。

(議長) 私どもデータもいただいておりませんし、そういう状況の中で議会がどうするかという判断は、今の時点ではできないと思ってますけども、結果をいただいた時点で、それぞれの議員さんが、そのデータを読みながら、結果を読みながらご判断いただけるのかなと思ってますし、私ども議長・副議長としては、その意見を聞かせていただきながら進めていくということになるかと思ってます。

(記者) ありがとうございます。では各社さんからあればお願いします。

○ 福岡県議会に関する報道について

(記者) たまたまなんか昨日ぐらいからニュースになってる、福岡県で、正副議長就任で、何かこう、現金を要求されたのかされてないのかちょっとまだね、報道の段階がちょっとどこまでのあれかわからないですけど。何かそういった一定の高額な金額をなんか払ったようなことを証言されるニュースがありましたけど。報道があったことはご存じですか。

(議長) 今日の新聞に載ってました。

(記者) ご感想というか受け止め、所感があれば。他県のことですけど、何か。

(議長) 本当にそんなことがあるのかなあというまず疑問ですね。それから、ある意味、とんでもない話だなと思いますし、三重県でそんなことがあったら私はこの立場に立つことができないだろうなというのが、ちょっと軽口を言っしまいましたけど。とんでもない話だと思います。正直言って。

(記者) という回答をいただいた上で改めてお尋ねするのもなんですが、三重県議会で、少なくとも議長、初当選以降ですね、そういった、正副議長選をめぐってそういうお話に触れたということは三重県議会ではありませんか。

(議長) 絶対ありませんね。はい。私の知る限りでは。

(記者) 申し訳ありません。これ副議長にもお尋ねして、まず受け止めから。

(副議長) 同じ思いです。同意見です。

(記者) そういった現金授受のようなことが、役選絡んであったとかそういうふうなことも、これまでも聞き及びになったことはない。

(副議長) ないですね。はい。

(記者) 他はよろしいですか。はい。ではないようなので、ありがとうございます。

(議長) どうもありがとうございました。

(以 上) 10時46分 終了